



5月の園だより

令和6年5月1日
目黒区立菅刈保育園長

園庭には5歳児クラスが作ったこいのぼりが元気よく泳ぎ、廊下では各クラスで作ったこいのぼりが飾られています。「これ〇〇の」と保護者の方へ教えている姿が誇らしく見えました。“自分で作ったもの”を大切に作る気持ちから、5歳児になるとグループの友達と力を合わせて作ることの達成感が感じられています。

先日2歳児クラスに入りました。一人の子は人形を箱車に載せて私の所まで来ます。「元気です」と人形を渡してくれるので「変わりないですか」と聞くと頷いて、また箱車を押していきます。他の子も箱車を押して人形を渡してくれました。「変わりないですか」と聞くとうんうんと頷いて、そして人形に“タッチ”と手を合わせ、手を振って箱車を押していきました。いつもやってもらっていることを再現しているのですね。一人の子はすぐお迎えに来ては人形（赤ちゃん）のやりとりを繰り返しています。時には「お熱」と言って預けることもあります。その時の困った表情はお母さんになりきっているのが分かります。さて、後に預けた子はと言うと・・・他の遊びに移ってしまったようです。私が「お母さんがお迎えに来ないな」と呟いてみても遊び続けていました。片付けの時間になり「お外行くよ」と保育士が声を掛けると、別の遊びをやめて、再び箱車を押して人形を引き取りに来ました。その子にとっては遊びが続いていたのですね。同じ遊びをしても一人一人違います。今ここにいる子どもが何を見て、何を感じて、何をしようとしているのか、その子どもの目線を持ち、心揺らしながらその子どもに寄り添っていくことが大切だと思いました。保育者と温かい関係性を築き、園が安心でき、その子らしく過ごせるように保育していきたいと思えます。

今月の予定

乳児身体計測

幼児身体計測

春の定期健診（全クラス）

5歳懇談会

2歳懇談会

春の西郷山（4,5歳クラス）

3歳懇談会

4歳懇談会

避難訓練 中旬

年間を通して、子どもたちの遊んでいる様子や職員の取り組みについてお伝えしていきます。



菅刈通信 戸外遊びの様子



進級・新入児の様子

つぼみ組(0歳児クラス)

初めての保育園生活に不安から涙を見せる姿もありましたが、保育士に抱っこされ、思いを受け止めてもらい笑顔も増えて、安心してきている姿に変わってきました。部屋やテラスでは這い這いや腹這いで保育士のそばから離れて遊び出したり、おもちゃのチャチャの歌に合わせて音のなる玩具を振り「うー」「あー」と声を出したりして楽しんでいます。保育士の顔も覚え始め、追う姿もありますが振り返って顔を確認しては「見ているよ」「いるよ」という言葉を返すことで再び遊びに向かうことができるなど、少しずつ関係を深めているところです。保育士と一緒に食べて遊んで眠るなど生活を共にする中で、心地良く気持ちが満たされて過ごしていけるようにしたいと思います。



すみれ組(1歳児クラス)

すみれ組には進級した子 6名、新しく入園した子 13名が入りました。新しい環境にまだ緊張している姿が見られますが、保育士に抱っこをされて少し落ち着いてくると気持ちを切り替え、少しずつ遊び始める姿が見られます。天気の良い日はテラスに出てシャボン玉を追いかけたり、園庭では、シャベルやバケツを持って砂いじりをしたりして楽しんでいます。毎日、少しずつですが行動範囲も広がってきています。これからも子どもたちの目線に立ちながら、一緒に色々な発見をしたり、体を動かしたりする中で“楽しい”と思える経験をたくさんしていきたいと思っています。

ひまわり組(2歳児クラス)

新しい保育室での生活が始まり、ドキドキしている姿も見られましたが新たに使える玩具に目を輝かせ、いろいろな遊びに取り組んでいるひまわり組の子どもたちです。広くなった保育室。部屋ではままごとやパズル等でゆったりと遊び、隣のホールに行くと巧技台等を使って身体を存分に動かしながら遊ぶことを楽しんでおり、一人一人がやりたい遊びを選んで遊んでいます。友達の遊びにも興味が向くようになる時期。ホールでリズム遊びが始まった時には、音楽や友達の楽しそうな声に誘われて気づけばクラスのほとんどの子たちが参加し、友達と同じ場で遊ぶ楽しさを感じています。自分のやりたい遊びをたくさん楽しむ姿を大切にしながら、遊びを通して友達と一緒に遊ぶ楽しさや嬉しさを感じられるように関わっていきます。





りす組(3歳児クラス)

1階に降りて園庭にすぐ出られるようになりました。登園してから「早くお庭に行こうよ」と目の前の園庭に出ることを楽しみにしています。園庭ではタイヤとマットを使って家や車を作ったり、縄をうんていに結び付けてブランコにしたりと道具を使って遊ぶ姿や、砂場で山や穴、水を流して川を作って遊ぶ姿があります。「マットはここに置こう」「ここからは靴を脱いでね」「水はこっちから流そう」など、やりとりをしながら楽しむ姿も増えてきました。自分の気持ちを言葉で伝えながら気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しんでます。やりとりを繰り返し行う中で友達と一緒に遊ぶと楽しいと思う経験を重ねながら、たくさん体を動かして遊んでいきたいと思えます。

うさぎ組(4歳児クラス)

「うさぎ組さん」と呼ぶと「はーい」と嬉しそうな表情を向ける子どもたちから、進級した喜びが伝わってきます。進級初日から園庭遊び後の片付けの場面で「小さい友達が使っていたおもちゃも一緒に片付けてくれるかしら」と声を掛けると「いいよ」と意気込み、みんなで園庭中を綺麗にしてくれました。担任が「すごく綺麗になったね、ありがとう」と声を掛けると誇らしげな顔を見せていました。その日から毎日片付けを“自分たちで頑張ろう”という意識を持って、片付けに時間がかかっている友達の手伝いも積極的にしながら自分たちだけでやり切っています。またお兄さんお姉さんになった気持ちから年下の友達を気にして関わる姿が少しずつ増え、帽子を脱いでしまっていた子に「帽子どうぞ」と被せようとしたり、話す時は優しい口調で伝えていたりします。このような子どもたち一人一人の心の成長を認めたり褒めたりしながら、自信に繋がる関わりを大切にしていきます。



きりん組(5歳児クラス)

きりん組になって一ヶ月、日々の当番活動にも慣れてきて、自分たちで時計を見て「そろそろ行ってくるね」と人数報告に出かけていきます。やり始めた頃、事務所から帰ってくると「楽しかった」と目を輝かせていた時を経て、今では年長組として責任を持ってやり遂げようとする自信に満ちた表情に変わってきています。『どんなきりん組になりたいか』子どもたちに聞いてみました。「リズムをカッコよくできるきりん組」「小さい子に優しいきりん組」「ドッチボールが上手なきりん組」とたくさんの意見が出ました。小さい子からの憧れの眼差しや、周りから認められる経験を通して、ますます自信をつけていくことなのでしょう。なりたい姿に近づけるよう励まし、時に背中を押しながら、一人一人が自分を表現できる場を大切にしていきたいと思えます。

